The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	序言
Author(s)	
Citation	大阪外大英米研究. 1979, 11
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99031
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

序　　言

仄聞するに，福田前首相はプレス・インターヴューの席で無躾な新聞記者から年令（とし）を聞かれると，昂然と胸をはって「私は38才です。明治38才です」としごく真顔で答えられたそうである。明治38年生まれといえばすでによわい70の坂を越しておられる筈であるが，気力・体力ともに38才の壮者に決してひけをとらぬという並々ならぬ自信の程を披歴されたものであろう。

一国の浮沈を一身に担う宰相ともなれば勿論のことと思うが，われわれ教育者・研究者とても永遠の若さと情熱とを希わぬものは無いであろう。とは言え，寄る年波には抗し難く，いつしか気力も体力も衰えてゆくのが大方の悲しい宿命である。

ところが，わが英語学科の名主任林栄一先生には，この世の鉄則もとんと適用されぬらしい。私ごとに亘って甚だ恐縮だが，私が縁あって先生と交遊関係を結ばせて載いてから丁度30年の歳月をけみしたが，驚くべきことに，先生は今日なお当初の若々しさを些も失っておられない。今春，金山教授から「林先生の還暦記念の論文集を」とお話をもちかけられて，一瞬わが耳を疑ったほどである。それほどに現在の林先生の若々しい風貌と「還暦」とは，私のイメージの中でどうしても嚙み合わなかったのである。

当時すでに新進気鋭の言語学者として学界の注目を一身に集めておられたが，深い学識と流暢なスピーチとでガリオア留学生試験の難関も難なく通過，ミシガン大学大学院に笈を負われてフリーズ，バイク，キュアラスらの世界的学者から新言語学の奥義の伝授を受けて帰国せられてからは，更に造詣を深められ，あたかも敗戦直後の暗い夜空に燦然と孤光を放つ彗星の如き存在となられた。

じらい四半世紀にわたって，林先生がわが国言語学の発展とわが大阪外国語大学の名声とのために果たされた貢献は誠に広大であって，私の蕪辞の到底尽くせるものではない。今回，同じ学び舎に職を奉ずる者が集まって日頃の研究を「英米研究，第11号」特集号としてまとめ上げて，先生の御還暦をお祝いし，併せて御学運の彌栄をお祈り申し上げる機会に恵まれたことを衷心から感謝したい。

昭和54年3月30日

森塚文雄